



Close Up YNU 2017

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン

TOPICS

横浜国立大学での学びを修了した卒業生・修了生が旅立ち、新たに新入生2,652名が入学。新設都市科学部も始動!



平成28年度 横浜国立大学 卒業式・大学院修了式

2 017年3月24日、横浜文化体育館にて平成28年度横浜国立大学卒業式・大学院修了式を執り行いました。

学長式辞では、21世紀はますます不透明な時代になるので、未知なものへの好奇心を持ち続け、未来

社会を切り開いていく推進役として成長してほしいとメッセージが述べられました。学部卒業生1,611名、大学院修了生922名及び専門職学位課程修了生13名が本学での学びを修了し、新たなステージへ羽ばたいていくこととなりました。

平成29年度 横浜国立大学 入学式

新 年度を迎え、4月4日に平成29年度横浜国立大学入学式を執り行いました。

学長式辞では、本学の特徴である実践性を踏まえて、横浜・神奈川地域のローカルであるとともにグローバルな課題とイノベーションの推進に積極的に対応するため、平成29年度、全学部の教育組織改革を行い、50年ぶりの新学部となる都市科学部の開設に至った経緯が述べられました。そして、新しく生まれ変わった横浜国立大学で、沢山の事を学ぶと同時に、実践を心がけ、人間として未知の領域を

感じ取る能力を磨いていってほしいと新入生への期待を込めて結びとしました。

式辞の後には、都市科学部の第一期生となる新入生が代表として宣誓を行い、誇りと飽くなき向上心を持ち、自己の未知なる可能性を追求して、世界に貢献できる人材となるべく情熱をもって努力する事を誓いました。

その後、都市科学部は、6月10日に開設記念シンポジウムを開催し、第一期生も参加しました。教職員・学生と一緒に、新学部を飛躍させていこうという思いを共有しました。



平成29年度国公立大学の最終志願者ランキングで

本学は6位にランクイン

文部科学省が公表した平成29年度国公立大学入学志願者選抜大学別確定志願者数によると、本学の志願者数は8,468名となり、これを基に雑誌プレジデントが発表した国公立大学志願者数ランキングで、本学は上位6位としてランクインしました。同雑誌が比較した昨年度比の人数で見ると、本学は今年度629名の増加となります。志願者数が増加した要因としては、教育人間科学部を教育学部へ改組し、新しく都市科学部を設けた事が人気を集めた、と評され、本

学新体制への期待の高さを証明する結果となりました。

また、平成29年3月30日には、世界大学ランキングで知られる英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」が、日本版ランキングを初めて発表し、本学は総合33位にランクインしました。評価指標は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」の4分野11項目で、国内の国公立・私立大学のうち調査対象となった大学は435大学です。今回の結果

で、本学は4つの指標別では、企業人事評価と研究者の評価調査による「教育成果」は比較的良好でした。一方、研究費や論文引用数などを評価した「教育リソース」、高校教員の評判調査である「教育満足度」、外国人学生らの比率を比べた「国際性」については、一層の改善に努めていく必要があると考えています。

今後も更なる教育・研究の発展を目指してまいります。本学のこれからの取り組みにご期待ください。

2016年度 YNUと地域との連携協定

— 地域社会の発展の為、地域・地元企業との繋がりをより強化しています! —

横

浜国立大学は、神奈川県や横浜市、保土ヶ谷区を中心とした連携により、都市と地域社会の課題解決及び大学の教育・研究機能の向上

を図り、2016年度に様々な連携協定を締結しました。また、2017年4月には地域社会と連携する中核拠点として、「地域連携推進機構」を設置しました。

機構の設置により、学外からの相談窓口を一本化し、情報一元管理、共有化をすすめて、地域連携をより推進していきます。

2016年4月25日

地元企業相鉄ホールディングス株式会社との地域活性化にかかる包括連携協定締結

本協定は、本学と相鉄ホールディングスが教育・文化・健康・福祉・環境・資源・まちづくりの諸施策で協力し、相鉄線沿線地域社会の発展に資する取り組みを通じ、都市並びに地域の魅力向上、および大学の教育、研究機能の向上を図ることを目的としています。

今後は、超高齢社会における交通社会のあり方に関する研究・実験、商店街の活性化に資する取り組みや「多くの留学生・外国人研究者が協働し活躍するグローバルキャンパス」の実現に向けた留学生や外国人研究者の居住環境の整備等について、大学・民間企業それぞれの知見を集め、よりスピーディーに取り組みを実行していきます。

2016年6月16日

横浜市との大規模災害時における協定締結

横浜市からの災害廃棄物の仮置き場設置協力の要請を受け、大規模災害発生後の復旧・復興を迅速に進めるために、災害廃棄物を一時的に保管する仮置き場の確保の必要性に鑑み、協定締結に至りました。なお、本学の他、市内の横浜市立大学、横浜商科大学も同協定を横浜市と締結しました。

横浜市とは2013年6月に包括協定を締結していますが、大学と連携した地域社会づくりにこれからも具体的に様々な分野で連携していきます。



2017年1月20日

神奈川県との包括連携協定

本学は、神奈川県と包括連携協定を締結する事に同意し、同日、神奈川県庁において締結式を行いました。本協定は、複雑・多様化している神奈川の課題に協力して取り組み、地域社会の発展に寄与する事を目的としています。

神奈川県とは、これまでに教育やライフサイエンス分野等で連携してきましたが、今回の包括連携協定締結により、さらに関係をより充実・強化する形となりました。

新制中規模国立大学間包括連携協定を締結

2017年3月15日、旧制師範学校や専門分野の旧制学校等の流れを汲む新制中規模国立大学(岩手大学、茨城大学、宇都宮大学、埼玉大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、静岡大学、奈良女子大学、和歌山大学、横浜国立大学)の全10大学において包括連携協定を締結し、連携コンソーシアムを設立しました。これまでもそれぞれの大学の様々な領域において連携して

きたところですが、より広範囲にわたる密接な協力・連携の体制が構築されました。各大学の機能強化を図り、教育・研究等の一層の進展に資することがこのコンソーシアムを設立する目的です。

【具体的な取組事例】

- 学長を中心とした総括的な情報・意見交換
- 副学長や事務担当者等を中心とした課題別の情報・意見交換、協議
- クラウドサービスを活用した情報共有
- 事務職員の協同研修



日本留学 AWARDS 2015、2016年の連続入賞に続き、 2017年東日本地区国公立大学部門で大賞を受賞

— 日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先として多くの支持を獲得 —

日本留学 AWARDS は、日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先(大学・大学院・専門学校)アンケートの結果にもとづき、多くの支持を集めた学校を表彰するもので、本学は2015年、2016年の連続入賞を果たしていましたが、2017年は初めて大賞を受賞し

ました。更に初めて、大学院部門でも入賞を果たしました。これは留学生の受け入れに積極的に取り組んできた姿勢を評価頂いたものと受け止めています。これを契機に、今後も更なる留学支援の充実に努めていきます。

授賞式の様子。大賞受賞の御礼を述べる中村理事
(国際・地域・広報担当・副学長)



第10回国際みなとまち大学リーグ国際セミナー開催

第10回国際みなとまち大学リーグ国際セミナー "Coordinated Development for Port, Transportation and City" が、2016年9月25日から28日、中国・大連理工大学で開催されました。

国際みなとまち大学リーグは本学の提唱により2006年に発足しました。世界各国の港湾都市にある大学間の交流ネットワークを構築し、港に関わる文化(歴史、交易、産業、海洋研究、人々の暮らしなど)を共に幅広く考えるとともに、大学だけでなく、市民も含めて交流していくことを目指し、現在12カ

国15大学が加盟しています。

今回のセミナーでは、加盟大学の参加者による研究発表が行われ、本学からは中村理事はじめ他4名の教員から報告があり、会場からは多くの質問があがり、活発な議論がおこなわれました。その他、開催場

所となった大連理工大学の研究施設、大連の港湾施設を視察しました。今回、大連理工大学と横浜国立大学の学生がこのプログラムに参加し、これまで研究者交流が中心であったネットワークを学生交流へと発展する機会にもなりました。



YNUの国際ブランチ(海外協働教育研究拠点)一覽

横 浜国立大学は、2017年9月現在、6カ国6拠点に国際ブランチを設置しています。

ブランチ設置は、1. 教育の強化、2. 研究



オウル大学ブランチオフィス前で行われた国際交流イベントの様子

の強化、3. ミッションの強み、4. 基礎教育の強化、5. グローバル標準での教育、6. 先端レベル教育と6つの項目を目的としています。新たな教育プログラムの実施、優秀な留学生を獲得するための広報活動、拠点国内の大学との交流、同窓会の開催などを中心に活動しています。

本学が国際連携のハブとして機能することにより、海外協定大学の在学・卒業生、国内外で就職・活動する本学卒業生・在校生・在職教員などとの人的ネットワークを構築し、一層の国際交流・国際競合研究基盤の形成を強化していきます。

国際ブランチ一覧

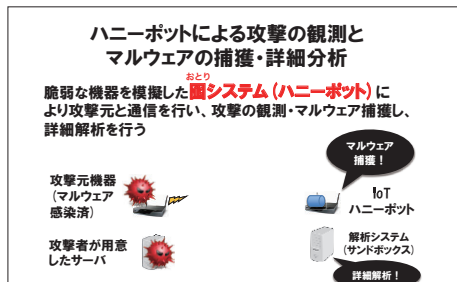
▶ベトナム ダナン大学ブランチ (2014年6月設置)	安心・安全に関する実践的な科学技術の研究開発及び人材育成の協力拠点として運営
▶中国 対外経済貿易大学 ブランチ(2014年9月設置)	アジア・世界経済に関する実践的な調査、研究開発、人材育成の協力拠点として運営
▶ブラジル サンパウロ大学ブランチ (2015年5月設置)	アジアと中南米の協働による持続可能な発展のための実践的な調査、研究開発、人材育成の協力拠点として運営
▶フィンランド オウル大学ブランチ (2015年11月設置)	地域の研究・教育に関する情報の収集と発信、広報活動への協力、入学希望者への最新情報の提供、海外同窓会活動における協力、本学教職員の受入れ支援を役割とし、ヨーロッパにおける協働教育研究拠点として運営
▶タイ プリンス・オブ・ ソクラ大学ブランチ (2017年6月設置)	環境科学、自然科学、経営学、日本研究、都市開発の分野におけるタイや周辺諸国の実用的研究、人材育成の拠点として運営
▶アメリカ ポートランド州立大学 ブランチ (2017年9月設置)	YNU 海外短期英語研修プログラム、日本語・日本研究、都市計画及び交通計画分野の研究の協力拠点として運営

IoT機器のサイバーセキュリティ対策の研究に従事し、産学官連携功労者表彰で総務大臣表彰を受賞した他、情報セキュリティ文化賞など数々の賞を受賞している吉岡克成准教授と、近年メディアにも多く取りあげられる「ダブルケア」という概念を定義した相馬直子准教授の研究をご紹介します。

IoT時代におけるサイバーセキュリティ対策の向上に向けて

大学院環境情報研究院 准教授 吉岡克成

ネットワークを通じて様々な“もの”が接続し、それらから得られる情報が新たな価値を生み出す新しい情報社会の形としてIoT (Internet of Things) という概念が目まぐるしく注目を浴びています。情報家電や自動車、防犯カメラや環境センサ、大規模な工場や交通インフラまでが相互接続し、新しいサービスの提供を試みています。一方、高



い価値の創出は、それを奪取したり、操作したり、破壊しようとする不正な試みを誘引します。我々の研究室では、IoTの発展がもたらすセキュリティ上の脅威を様々な角度から調査分析し、対策技術を検討しています。特に、IoTにおけるサイバー攻撃を観測するシステムを世界で初めて構築し、運用を行っています。この観測システムはセキュリティの弱い機器のふりをした“おとり”により攻撃者の注意を惹き、様々な攻撃を観測します。

その結果、2014年頃から増加傾向にあったIoTにおけるサイバー攻撃が2016年に入って爆発的に増加し、200か国以上の500種類以上の機器が不正なプログラムに感染していることを発見しました。これ

まで、この分析結果を我が国の公的機関を含む世界の40以上の研究組織、政府組織、機器製造者に提供しています。また、攻撃の観測だけでなく、攻撃を受ける可能性のある脆弱性を有するシステムを探索する仕組みを構築し、所有者や製造者に情報提供を行っています。最近では、中でも特に産業制御システム等、重要システムに関するセキュリティの現状把握に取り組み、その改善に貢献しています。



YOSHIOKA Katsunari
専門分野：
通信・ネットワーク工学

超少子化・高齢化社会におけるダブルケア 問題の発見

(育児と介護の同時進行を中心としたケアの複合化・多重化)

大学院国際社会科学研究院 准教授 相馬直子

英国ブリストル大学山下順子氏らとの国際共同研究により、超少子化と高齢化が同時進行する日本や東アジアでは「ダブルケア」(育児や介護の同時進行をはじめとした、ケアの複合化・多重化)リスクの増大が予測されるという問題に注目しました。

研究していく課程で、介護・子育ての縦割り制度のはざままで、ダブルケアラーの孤立や困難な実態があることがわかりました。30代では、ダブルケア予備軍も含めると、27.1%と4人に1人が、ダブルケアが自分の問題となっていると言えます。また、負担が複合的であり、世帯構成、就業の有無、親の介護度のレベル、子育ての状況等、様々なダブルケアパターンを示しました。

「ダブルケア」とは、世代間のケアの連関

のあり方から、その複合的な責任・負担・ニーズのあり方(構造)と課題を捉える1つの切り口です。この「ダブルケア」を、複数の課題や主体を引き寄せる「磁石」としてとらえ、「自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム」(*)構築へのソーシャルイノベーションのダイナミズム分析から、変革の可能性と課題を提示しています。

研究を進める上で当初予想していなかった意外な展開もありました。メディアでダブルケアが取り上げられ、社会的関心を喚起したことが挙げられます。また、地域貢献活動として、横浜市・市民団体と連携し、ダブルケア当事者の座談会、シンポジウム、討論会を積極的に開催する事となりました。国政レベルでは、国会予算委員会等で言及

され、政府の男女共同参画会議の「男女共同参画・女性活躍の推進に向けた重点取組事項について」(2015年6月)でダブルケアの概念が政府文書に入り、国の実態調査実施をうながす結果となりました。現在、各自治体でもダブルケア実態調査、ダブルケア対策が進行しています。

ダブルケアとは… 家族の中にある複数のケア(介護と子育ての同時進行)



され、政府の男女共同参画会議の「男女共同参画・女性活躍の推進に向けた重点取組事項について」(2015年6月)でダブルケアの概念が政府文書に入り、国の実態調査実施をうながす結果となりました。現在、各自治体でもダブルケア実態調査、ダブルケア対策が進行しています。

(*)「地域住民(ダブルケア当事者)による状況とニーズの定義に基づいた、子育て、介護、貧困などの領域を横断して、包摂的に、多世代にまたがるケア関係を射程にのけたケアシステム」



SOMA Naoko
研究分野：
子育てや家族に関する
福祉政策の国際比較

第13回神奈川産学チャレンジプログラムで本学の5チームが入賞!

第13回神奈川産学チャレンジプログラムの表彰式が、2016年12月14日、パシフィック横浜会議センターで開催されました。このプログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会によって毎年開催されているもので、同友会の会員が所属する企業・団体が日常の経営課題に関する実践的な研究テーマを提示し、これに対して学生がテーマを選び、研究レポートとして提出したのに対し、優秀な作品を表彰するというものです。

今年度は、神奈川県内の20大学から211チーム・817名の学生がレポートを提出し、本学からは8チーム・22人の学生が参加しました。審査の結果、経営学部真鍋ゼミ所属の学生3名のチームによる「生活者の変化を捉えた、百貨店が手掛けるべき新たなビジネスとは(株式会社京急百貨店)」をテーマとしたレポートが最優秀賞を受賞しました。その他、本学の4チームも優秀賞を受賞しました。学生の今後の活躍に期待しましょう!



長谷部学長と入賞チームの学生たち

体育会系部活動の壮行会を開催

長谷部学長主催で、2016年4月14日、学生支援課に登録されている運動部団体を対象とした、体育会系部活動の壮行会を開催し、29団体57人の学生が各部のユニフォーム姿で参加しました。

学長は開会の挨拶で、運動部の益々の発展と今シーズンの活躍を願いこの壮行会を開催したこと、スポーツや文化で盛り上がる大学にしていくことは、グローバルな大

学にしていくための重要な仕事であると述べました。

学長はじめ各部活動の顧問教員が一堂に会し、学生を激励した他、各部活動の代表者から「一部リーグ昇格」や「全国国立大会で決勝トーナメント出場」など今後の抱負を発表し、熱気あふれるものとなりました。平成29年度は文化部も交えて開催します。今後も全学を挙げて課外活動を応援していきます。



壮行会で談笑する学生と長谷部学長

学生課外活動表彰式の実施

Awards ceremony

2017年3月21日、課外活動で優秀な成績を収めた学生・団体へ、長谷部学長より表彰状が贈られました。

団体

表彰者	被推薦者参加大会名及び推薦理由等
アイスホッケー部	平成28年度関東大学アイスホッケーリーグ戦 Division IIIにて優勝等
硬式野球部	第65回関東甲信越大学体育大会優勝等
モータースポーツ部フォーミュラ部門	第14回全日本学生フォーミュラ大会にて総合2位
スポーツチャンバラ翔剣会 女子団体	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 女子団体戦にて優勝

個人

表彰者	被推薦者参加大会名及び推薦理由等
中野亨道さん (教育人間科学部保健体育講座研究生)	第31回オリンピック競技大会(2016/リオ)柔道男子81kg級フィリピン代表で出場
福里秋帆さん (教育人間科学部4年、陸上競技部所属)	第64、65回関東甲信越大学体育大会 陸上競技の部 陸上競技女子800m優勝
梅田 輝さん (教育人間科学部2年、フィギュアスケート部所属)	第44回関東学生フリースケーティング選手権大会 5・6級男子にて第1位等
原料太一さん (経営学部2年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	第42回世界選手権大会権長剣 初段以上の部にて優勝・打突競技国別対抗団体戦の部にて準優勝等



大河原優花さん (理工学部1年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 新人基本動作にて準優勝・新人女子短刀にて準優勝
小田垣優衣さん (教育人間科学部1年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 新人女子グランドチャンピオン・新人女子長剣フリーにて優勝
五島昂征さん (経営学部2年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 有級男子小太刀にて準優勝
齋藤哲平さん (教育人間科学部1年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 新人男子長剣両手にて優勝
坂牧りささん (経営学部2年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 新人女子小太刀にて優勝・新人女子得物自由にて優勝
三宅佑紀さん (経済学部1年、スポーツチャンバラ翔剣会所属)	スポーツチャンバラ第二十三回全日本学生大会 新人男子長物にて優勝
小寺拓実さん (理工学部4年、モダンジャズ研究会所属)	The 2016 FreshGrass Banjo Award Second Prize

PICK UP YNU ウェブサイトコンテンツのご案内

卒業生と学長の対談企画掲載、
横浜国立大学YouTube公式チャンネル
運用スタート!

2016年度の学長対談として、卒業生二名との対談企画を本学ウェブサイト上に掲載中です。一人目は、本学へ留学生として来日し、その後タイ王国の財務大臣・商務大臣を歴任されたタノン・ビダヤ氏(1970年経済学部卒)です。二人目は、2016年6月に横浜銀行頭取に就任された川村健一氏(1982年経済学部卒)です。お二方の卒業生が語るYNUへの想い、是非ご確認ください。

また2017年3月よりYouTube公式チャンネルを取得しました。チャンネル内では、大学PR動画、公開講座の様子等を見る事ができます。今後もインターネット上での情報発信力を一層強化していきますので、是非ご覧ください。

大学ウェブサイト ☞ <http://www.ynu.ac.jp/>

Youtubeリンク ☞ <https://www.youtube.com/channel/UCDNW7MmVbT1HStpM5uwP0LA/>

横浜国立大学基金ウェブサイト
リニューアルのお知らせ

2017年4月、横浜国立大学基金のウェブサイトリニューアルしました。デザインを刷新し、寄附の種類・方法・特典を整理して、より見やすいウェブサイトになりました。また、より手軽にご支援頂けるよう、新たにクレジットカード決済を開始したので、

「寄附の方法」にてご案内しております。是非ご覧頂き、横浜国立大学基金へのご協力を頂ければ幸いです。

横浜国立大学基金ウェブサイト

☞ <http://kikin.ynu.jp/>

Let's go
YNU!第12回横浜国立大学ホームカミングデー
『横国Day』のご案内

ホームカミングデーは、同窓生、そのご家族、在学生と保護者、教職員(退職者を含む)、また地域の方などの本学関係者がキャンパスに集い、旧交を温めるとともに、新たな親睦を深めることを目的とし、今年度で12回目の開催となります。

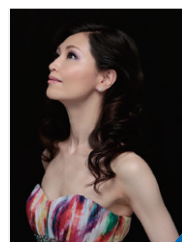
今年度(平成29年度)より、これまでのホームカミングデーの趣旨を踏まえつつ、名称を「横国Day」として大学からの情報発信を行い、より多くの方に本学を知っていただくためのイベントに発展を遂げます。13時からメインイベントとして、学長、本学教授の講演の他、横浜銀行川村頭取の講演、グリークラブとピアノ演奏のコンサート等を予定しています。

お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

コンサートでは、世界で活躍する
ピアニスト川上敦子氏
(経済学部卒)が演奏



交流会の様子



開催日

2017年
10月14日
(土)第12回横浜国立大学ホームカミングデー
(横国Day)詳細横国Day
ウェブサイト ☞ http://www.ynu.ac.jp/about/project/yokokokuday/h_29.html

卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学)先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用方法は以下の通りとなります。

- ・ 大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度) ※希望者のみ
- ・ 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- ・ 登録情報を同窓会へ提供 ※許諾者のみ
- ・ YNU ネットアドレス(生涯メール)の登録/確認

左記のこと以外の利用および提供は一切いたしません。
また、関係法令及び本学規則等により個人情報として適正に管理、使用いたします。

本趣旨と使用方法をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

登録
方法

パソコンより下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国大ウェブサイト → 「卒業生の方」 → 「卒業生・修了生データ登録」

YNUネットアドレスサービスのご案内

詳しくはこちら ☞ www.ynu.ac.jp/about/project/metaddress/

YNU ネットアドレスサービス(生涯メールサービス)は、本学が、卒業生・修了生並びに学生及び教職員を対象として、在学・在職時から生涯に亘って利用できるメールアドレスです。

本サービスは、Microsoft社が教育機関向けに無料で提供しているメールサービス「Office365 for Education」を利用し、本学が公的に保有するドメインである「@ynu.jp」を付したメールの送受信を行うものです。メールサーバ本体の運用管理はMicrosoft社が行いますが、利用者管理は本学側が行うことになります。送受信は、主にウェブメールで行います。

YNU ネットアドレスサービスのご利用は、左記の「卒業生・修了生データ登録システム」よりお申し込みください。